【多文化共生指針策定会議】

概要

平成 27 年 7 月から 12 月まで毎月 1 回、計 6 回の会議を開催しました。この会議の大きな特長は幅広い意見交換を行うために、外国人住民、市役所関係各課の職員、各テーマの関連企業、団体、自治組織、一般市民が策定会議のメンバー(参加者名簿 34-35 ページ)となりました。毎回各テーブルに違う立場の人が話し合いができるようにグループを配置し、ワークショップ形式で会議を進めました。このワークショップのテーマは「ごみ」「交通・観光」「防災」「医療・福祉」「子育て・教育」「先進事例から学ぶ」という生活していく上で身近なものを取り入れました。

また、各回「フォトランゲージ・地球家族」「アジアマスターズから学んだもの」「避難所のストーブ」「レヌカの学び」「外国につながる子どもの教育とその課題」「北上市の基本目標と多文化共生指針概要案との整合性」についての体験型ワークショップを行いました。各グループに外国人が入り、日本人が外国人の気持ちや考え方を理解できるような工夫をしました。ゲストのシカゴ大学スコット・アルガード氏にはカナダと日本の医療制度の違いを学び、また、岩手大学准教授松岡洋子氏には日本語指導の必要性の判断についてご指導いただきました。

北上市多文化共生指針策定会議　策定チーム　ゲスト発表者名簿
（会議開催順 敬称略）

（株）マルサ	営業課	高橋　福雄
（有）マルサ商会	所長	髙橋　美春
水神温泉　山照園	取締役専務	菊池　勝
岩手県立中部病院	地域医療福祉連携室長	星野　彰
岩手県立中部病院	連携コーディネーター	鈴木　弘子
シカゴ大学	東アジア研究学研究者	スコット・アルガード
（公財）岩手県国際交流協会	事務局次長	宮　順子
岩手大学　グローバル教育センター	准教授	松岡　洋子
北上市立上野中学校	講師	伊藤　智江

北上市多文化共生指針策定会議開催経過

テーマ	開催日	内容	ワークショップ	参加者	外国人住民
テーマ① 『ごみ』	7/7 (火) 13:30 ～ 15:30	【事例紹介】 (有)マルサ商会 所長　髙橋　美春さん (株)マルサ 営業課　高橋　福雄さん 【北上市担当課からの報告】 生活環境部クリーン推進課 主任　及川　誉政さん 【外国人住民からの発表】 菊地　紅さん(中国)	フォトランゲージ「地球家族」 ①世界の生活　いるもの・いらないもの ②外国でのゴミ出しはどうする？	29 名 (うち市職員:10 名) 外国人女性:2 名 女性:14 名 男性:11 名 中学生:2 名	中国 台湾
テーマ② 『交通・観光』	8/24 (月) 13:30 ～ 15:30	【事例紹介】 水神温泉　山照園　菊池　勝さん 【北上市担当課からの報告】 北上市商業観光課 課長　及川　勝彦さん 【外国人住民からの発表】 前原　ゆうさん(台湾)	交通や観光の案内を中心に考える ①一時的な旅行者への対応 　金銭・宿泊・交通案内・観光案内・買物 ②生活者への対応 　駅・地域・学校・観光地・企業	31 名 (うち市職員:9 名) 外国人:5 名 女性:12 名 男性:14 名	韓国、 中国 台湾 アメリカ
テーマ③ 『防災』	9/15 (火) 13:30 ～ 15:30	【事例紹介】 防災士について　清水上　裕さん 【北上市担当課からの報告】 北上市消防防災課 係長　金子　幸弘さん	ワークショップ「避難所のストーブ」 ①シナリオを読んだ感想を張り出す ②どうすれば摩擦やトラブルを防ぐことができるかをグループで話し合い発表する	26 名 (うち市職員:8 名) 外国人女性:4 名 女性:13 名 男性:9 名	韓国 中国 台湾
テーマ④ 『医療・福祉』	10/14 (水) 13:30 ～ 15:30	【現状報告】 岩手県立中部病院 地域医療福祉連携室 連携室長　星野　彰さん 連携コーディネーター鈴木弘子さん 【講演】 医療を考えて ～日本の課題、カナダの課題～ スコット・アルガードさん(シカゴ大学) 【北上市担当課からの報告】 北上市健康福祉部健康増進課 係長　佐藤香賀里さん	ワークショップ「レヌカの学び」 医療・福祉に関することで、多文化共生の観点で「思い込み」はないだろうか。また、どんな「思い込み」が出てくるだろうか。	32 名 (うち市職員:6 名) 外国人:6 名 女性:14 名 男性:11 名 子:1 名	韓国 中国 台湾 カナダ
テーマ⑤ 『子育て・教育』	11/11 (水) 13:30 ～ 15:30	【事例紹介】 上野中学校講師　伊藤　智江さん 学習支援　通訳者　菊池　クレオさん 【北上市担当課からの報告】 北上市教育委員会教育部子育て支援課 課長補佐　髙橋　景子さん	ワークショップ「外国につながる子どもの教育とその課題」 岩手大学 グローバル教育センター 准教授　松岡　洋子さん	32 名 (うち市職員:7 名) 外国人女性:5 名 女性:18 名 男性:8 名 中学生:1 名	韓国 中国 台湾 フィリピン
策定委員会 まとめ	12/9 (水) 13:30 ～ 15:30	北上市総合計画の基本目標と多文化共生指針概要案との整合性についての検討	ワークショップ「多文化共生プランの先進事例を参考に北上市総合計画、基本目標の中に多文化共生の視点を盛り込む」	27 名 (うち市職員:7 名) 外国人女性:5 名 女性:15 名 男性:7 名	韓国 中国 台湾 フィリピン

北上市多文化共生指針策定会議での主な意見（抜粋）

テーマ	開催日	主な意見（抜粋）
テーマ① 『ごみ』	7/7 （火） 13:30 ～ 15:30	・ゴミはその国々で異なるし、モノの大切さも国や人によって異なる。同じ国内であっても、「ゴミ」1 つに対し様々な価値観を持っていることを改めて実感した。 ・隣に外国人が住んでいるという状態が、昔と違って可能性のある事になってきている昨今、自分が外国人という逆の立場から見て「どのようにして地域に溶け込んでいくか」を考えさせられた。 ・海外では「どのようにゴミを捨てるのか」などと考えたことがなかったので、新鮮な興味を持って聞くことができた。 ・皆の考えがとても似ていて、コミュニケーションの大事さを考えさせられた。
テーマ② 『交通・観光』	8/24 （月） 13:30 ～ 15:30	・交通は、企業だけでも自治体だけでもクリアできる問題ではないので、協働で 5～10 年間継続して取り組んでいただきたい。 ・住民への対応が出来れば、一時的な外国人旅行者への対応もクリアできると思う。 ・様々な文化圏の外国人観光客への習慣などの認識・理解・対応が大切だと思った。 ・イヤホンガイドや、スマートフォンをかざすとその説明が得られるシステムの設置・導入。 ・図面・イラストと多言語による表示。 ・地域の広報誌やポスター、チラシ等の多言語化。 ・住民と外国人が一緒になって地域について学ぶ研修会の実施。 ・SNS で利用できるアプリの開発（交通網、料金 など），WiFi の整備。
テーマ③ 『防災』	9/15 （火） 13:30 ～ 15:30	・日頃から外国人目線で考え、多言語対応の準備をしておく必要がある事が再確認できた。 ・言葉が通じない時の共感の大切さを改めて学んだ。ゆとりを持って相手を思いやる気持ちがどんな時にも大切だと思う。 ・自分の国では経験したことがないので、防災の訓練もしておきたい。（外国人参加者の意見） ・ピクトグラムで情報を伝えようとしても、各国で理解の仕方が異なることを知ることができた。海外の文化を知ることが、施策をたてる上での第一歩だと感じた。 ・普段以上に思いやりの心で接することを心がける。 ・自分と違う立場の人がいることを理解する。 ・分かりやすい日本語を使う。 ・見た目ではない、弱い立場を知る。
テーマ④ 『医療・福祉』	10/14 （水） 13:30 ～ 15:30	・外国人が転入届を提出する時、医療の資料の配布や医療情報を伝える方が良いと思う。さらに、その資料が多言語表示されていれば、利用者にとって便利だと思う。 ・病気や体調不良の時は、日本人でも心細くなるものだが、外国人の方々の場合はより一層不安に感じると思う。そういった外国人の方々にもきちんと手をさしのべる事のできる対応が必要だと感じた。 ・病院の利用や受診に対する外国人の考えや、日本との違いを聞くことができ、勉強になった。 ・思い込みや感覚が事実からなる個人主観とすれば、本質を捉えようとする客観的な真実を知る姿勢を持ちたい。 ・北上市にも企業で働く外国の方を見かける。その方達に幸せを感じていただける環境づくりが市民レベルで望まれる。
テーマ⑤ 『子育て・教育』	11/11 （水） 13:30 ～ 15:30	・学校教育の中に、是非とも多文化共生をテーマにした教育をしてほしい。 ・講師の「読み・書きは勉強しないと身につかない」という言葉には、重大な意味があると感じた。未来ある子どもたちには国籍の有無に関わらず、平等であるべきだと思う。 ・子どもの頑張る力、それをサポートする周りの大人たち、まさに様々な角度からの連携が必要であると学んだ。 ・言葉の意味だけ分かっても考え方や習慣などが違うので、お互いに理解するのは難しいと思った。また、日常会話ができても学習ができるわけではないということを知った。
多文化共生 指針 策定委員会 まとめ	12/9 （水） 13:30 ～ 15:30	・まだ市民レベルの意識は低いと感じるし、市民が主役になるような方向付けが必要になると思う。 ・普段何気なく暮らしていたが、このような会に参加し、今後色々な事に目を向けようと思った。 ・情報が必要な人に届くシステムの構築が大切だと思う。 ・様々なワークショップは、色々なバリアを取り除く上で成果があったと思われる。 ・労働力不足など切なる問題もあるので、外国の方と上手に交流していくことの大切さがわかった。 ・全く意識をしたことのない問題があることが分かった。外国人にやさしい北上のまちづくりを希望。 ・外国人目線で、北上市で暮らす中で不便な点や改善していけるところを考えると、まだまだ日本人のできること・やるべきことは沢山あると感じた。年齢、仕事、生まれた国など、皆違う人達で意見を出し合い話し合うと、それぞれが色々な考えを持っていることが分かり、とても貴重な体験だった。 ・他市の先進事例の中に良いものがあるので、取り入れられればと思う。 ・教育や地域活動、外国籍であっても分け隔てのない就業と、タテ割りでは捉える事のできない難しさを改めて感じた。 ・各グループに外国人を配置しているのが良かった。